

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2375601016
事業所名	グループホームあま恵寿荘

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） コロナの感染症5類移行後は、ホームとしてもコロナ禍以前の取組みに戻せるように努めている。地域への外出支援では、ドラッグストアへの買い物や地域焦点の利用等、利用者の必要に応じた地域交流を継続している。レクリエーションボランティアの受け入れ、中学生の体験学習の受け入れ等、外部からの依頼も増えており、できる事から対応している。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 今年度5月のコロナの感染症5類移行後は、対面での会議を開催している。毎回多数の参加があり、意見交換の場としての活用がある。事前にメンバー全員に要望や意見等を書面で提出していただき、回答書を準備して会議で報告している。運営や支援内容に関わる事項は、積極的に反映させている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 行政担当者、地域包括支援センターの運営推進会議参加があり、ホームの理解を推進している。養成担当部署とは、ホームの運営に関わる相談や報告を通じて適切に連携している。地域包括支援センターとは、地域高齢者の困難事例等の情報を共有し、ホームでの受け入れ相談に発展するケースもある。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） コロナの感染症5類移行後は、自粛緩和に向けて、利用者家族との温度差もあり、意向や要望の聞き取り、ホームの方針等を丁寧に話し合い、内容を共有した。家族の不安や心配に配慮した利用者の情報提供には特に配慮し、家族が安心できるように密な連絡に努め、対応している。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価 ○ ○ ○
総合評価		○

【備考欄】

コロナの感染症5類移行後は、対面での会議開催に踏み切っている。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度
総合評価	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	◎
実施年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
総合評価	○	◎	○	◎							